

**MINAKAMI HEART**

みなかみと、生きる。  
みなかみが、生きる。

このまちを愛するひとのポイントカード、誕生。

加盟店でのお買物などで貯めたポイントは、1ポイント1円でご利用可能。  
また、水と森林と人を育む  
「みなかみユネスコエコパーク」の取組みにも活かされる。  
ポイントが使われるほど、みなかみは元気になる。

Minakami Biosphere Reserve

会員募集中!! 詳しくはWEBへ  
[みなかみと生きる](#)

QRコード

上州湯けむりライナー[高速バス]  
**みなかみ温泉号**  
水上駅・上毛高原駅 ⇄ 練馬駅(区役所前)・バスタ新宿

期間限定  
2019年11/30  
2020年3/31

11:00発 ▶ 11:20発 ▶ 13:55着 ▶ 14:25着  
水上駅 上毛高原駅 練馬駅(区役所前) 新宿  
13:10着 ▶ 12:50着 ▶ 10:15発 ▶ 9:45発

※乗車券は必ず事前にご購入下さい。

乗車券の発売場所  
■コンビニ《セブン-イレブン・ファミリーマート・ローソン》  
■みなかみ町観光協会  
■水上温泉旅館協同組合

片道3,400円(税込)  
往復5,600円(税込)  
小人は半額です

コンビニは出発日前日16:00以降はご利用できません。

※それ以降のご予約は、出発日当日に関越交通株式会社案内センター(フリーダイヤル 0120-53-0215)までお問い合わせください。

電話でご予約された方は 8:30~17:30(年中無休)

関越交通株式会社 みなかみ温泉号案内センター  
**0120-FreeDial-53-0215**  
みなかみ町観光協会、水上温泉旅館協同組合でもチケットをご購入できます。

バスモリ! App Store Google Play 専用アプリ「バスモリ!」から予約・決済できます

乗車券発売のご案内  
●乗車券の1ヶ月前(前月曜日)から前日までにお買い求めください。  
●往復ご購入の際の得りのチケットは、1月+6営業日先まで貰えます。  
●乗車券のご購入をおこなうて「予約完了」となります。  
●空席のある場合は、当日のご利用も可なります。  
●発売終了後の空席状況は窓口でご確認ください。  
●乗車券を忘れた割引券した場合は、再購入をしていただくことになりますのでご注意ください。

イベントなどの観光情報は、  
みなかみ町観光協会のホームページをご覧ください。  
<http://www.enjoy-minakami.jp/>

vol.5

2020年1月

Find your oasis.

みなかみ町を訪れる人はもちろん、住民のみなさまにとっても観光を通してみなかみ町の魅力・良さを見つけていただきたいという願いを込めたみなかみ町観光協会のキャッチフレーズです。

みなみ人の みなみ人による みなみ人のための観光マガジン

# Find your oasis.

**vol.5**  
2020.01.



## 「みなかみユネスコエコパーク」特集企画

温泉旅館  
座談会

林 泉 × 渡辺一彦 × 松原美成子

蕎麦屋経営

山岳ガイド



## 観光 × みなかみユネスコエコパーク

みなかみ町観光協会が不定期で発行している広報誌『Find your oasis.』。

今回は、記念すべき第5号目の特集として、「みなかみユネスコエコパーク」を取り上げます。

みなかみ町で活躍している方々が地域の魅力を紹介するシリーズ動画「MINAKAMI HEART」に出演されていた3名に、

登録から2年が経ったいま、みなかみユネスコエコパークで生活するなかで日々感じていることなどを

肌寒い早朝の谷川岳・一ノ倉沢で語ってもらいました。写真撮影には、みなかみ町藤原在住の夏目啓一郎さんに携わっていただきました。

Minakami Biosphere Reserve

イベントなどの観光情報は、  
みなかみ町観光協会の  
ホームページをご覧ください。



<http://www.enjoy-minakami.jp/>

締めの一滴

みなかみ町観光協会の広報誌として、2018年の春に創刊して本号で節目の5号目となりました。これまで山や温泉、農産物、アウトドアなどを特集してきました。ユネスコエコパークを通じて、普段生活しているなかで当たり前に感じている自然を改めて見つめ直すきっかけになれば嬉しいです。(みなかみ町観光協会・地域おこし協力隊／宇津木 信之介)



最初にそれぞれ自己紹介をお願いします。

松原 みなかみ山岳ガイド協会の松原美成子です。谷川岳の山頂に行くツアーなど、ここ（※撮影場所：一ノ倉沢）を走っている電気バスのガイドをしております。あとはほかの百名山の山に登ったり、尾瀬をガイドしたりしています。

渡辺 地元で「角彌（かどや）」という蕎麦屋を経営している渡辺一彦です。普段は飲食店の経営が主な仕事ですが、冬は地元の子どもたちのスキーの指導や、スキーメーカーのお仕事をさせていただいています。

林 新治にある「川古温泉 浜屋旅館」という旅館を経営している林泉です。また、国有林「赤谷の森」を官民協働で管理する「赤谷プロジェクト」を構成する「赤谷プロジェクト地域協議会」の会長をしています。

ユネスコエコパークに登録されてから2年が経ちましたが、なにか変化はありましたか？

松原 そうですね。登録後からいろいろなイベントのお仕事をしています。イオン高崎で「ユネスコエコパーク」のPR活動をする機会があったのですが、まだやはり一般の方のなかには「ユネスコエコパーク」がなにかが分からずの方が多い印象です。

渡辺 2年前と比べてそんなに印象は変わらないですが（笑）。みなかみ町は、自然を利用した観光がメインになっているので、ユネスコエコパークの理念に通じる「自然と共生」したような誘客とか観光をこれからも進めていく必要があるのではないか、と思っています。

林 ユネスコエコパークとして登録されて2年の時間が経ち、「ユネスコエコパーク」「みなかみBR」という枠組みが、どれだけ地域の住民のなかに定着するのか気になっていました。3町村（月夜野町、水上町、新治村）が合併してできた「みなかみ町」にとっては、この「みなかみユネス

コエコパーク」というのが、ひとつのコンセプトとして、旧3町村地域を越えて共有できるものになりつつあるのではないか、と感じています。

松原 「みなかみ町には、とっても豊かな自然があって、だから世界に認められているんです」と話すと、都会の方は、「すごい！」「そうなんだ！」「みなかみてやっぱり綺麗だから、いいよね！」っていう反応があるんです。「世界に認められていることが分かる気がする」っていうのを言ってくださって。すごくありがたいなって思います。みなかみの話をすると、「じゃあ、みなかみにやっぱり行かなきゃ」って皆さんが言ってくれるので、「ユネスコエコパーク」に登録されてすごく良かったな、と私は思います。

渡辺 ここ最近台風や大雨などの自然災害が多くあり、なかなか自然には勝てない部分がある。でも、自然と共生する中で学んだことが、食品を加工したり、鮮度に頼らない状態で「食」を発信したりする方法に活かせるのではないか。年間を通して、自然のなかで人が豊かに暮らせたり、都心や海外に向けて情報発信ができたりするのではないか、と思うようになりました。

林 その一方で、厳しいことを言うと、やはりなかなか定着していない。「みなかみユネスコエコパークってなんですか？」ということを、今でも聞かれことがあります…。もう少しみんなのなかに浸透していくべきだ、と思うのですが…。特別に難しく考える必要は無くて、「ユネスコエコパーク」の理念は、豊かな自然を利活用しながら、自分たち、地域住民の人たちが豊かに生活しています、ということを示せればいいのではないか。普段生活している中に「ここはユネスコエコパークだ」っていう意識を少しづつでも持てればいいのではないか、と思っています。



# Minakami Biosphere Reserve みなかみユネスコエコパーク

温泉旅館

林 泉 × 渡辺一彦 × 松原美成子

蕎麦屋経営

山岳ガイド



みなかみ町で生活をしていて、自然を感じる瞬間にについてそれをお聞かせください。

松原 自然を感じるですか…みなかみ町に移住して17年になるのですが、大峰山は好きですね。移住してからずっと感じているのは、四季がすごくはっきりと色で分かるんです。春は新緑の緑とか、秋はこのように木々が色とりどりに変わってきて。そして冬は白くなる。すごく色を感じます。あとは、最近家の庭に、カモシカが出てきまして…普通にカモシカがいるという凄さ（笑）。熊も出てくるんですが、すごく「自然が近い」っていうことを実感しながら生活しています。

渡辺 自分は自然を感じる瞬間って、「匂い」とか「音」ですね。松原さんがおっしゃった「色」もそうなんですが。同じ雨でも、「梅雨の雨」と「夏のスコールみたいな雨」だと、土に降ったときの匂いがかなり違うんです。温度も違ったりして、そういう瞬間にすごく自然を感じます。そんな話を店のスタッフとしたときに、スタッフの一人が、人間で一番記憶に残るのは「匂い」だっていう話を聞いて、すごく納得しました。

林 20代の頃は、1回この地域を出て東京に住んでいたことがあったので、こっちに戻って来たときに感じたのは、四季の移ろいをはっきり感じるようになりました。ただ一方で、自然はいつも優しいわけじゃないから。大水が出たりとか、大雪になったりとか、よくありましたね（笑）。

渡辺 雪が降ると、音を遮るじゃないですか。冬ってすごい静かに感じる。夜もほとんど音が聴こえない。除雪なんかしているときは危ないんですが（笑）。しんしんと降っていても、やはり声も届きにくくなるし、冬をすごく感じる瞬間ですね。





川古温泉 浜屋旅館 林 泉

赤谷プロジェクト地域協議会会長であり、川古温泉浜屋旅館を経営。  
みなかみ町国民温泉保養地協議会会長及びSLみなかみプロジェクト会長を務めている。

<http://www.kawafuru.com/>

### 生活している中で、「ユネスコエコパーク」を身近に感じるヒントがあれば教えてください。

松原 なかなか難しい質問ですね(笑)  
林 難しいんだよね(笑)。ひとり一人が自然を意識して生活しているかっていうと、そんなことはないよね。でも、自然が自分たちの生活と何かしら関わっているっていうのが分かれば、すこしは違うと思うんだよね。例えば、**自分たちの普段飲んでいる「水」が、ちゃんと安全で、安心して飲める**ということが継続できるように、そういう社会をつくるといけない

い。そこに自分も参加できれば、という意識ができてくればいいんだと思う。実際のところ、地元の人たちと話しているときに、「何、それ?」ってなってしまう(笑)

松原 なってしまうんですね(笑)自然があることが当たり前だから。

林 でも、農家の人は毎年自然を相手に野菜を作っている。無意識のうちに、自然のなかで生活をしているんだっていうことを、そういうもんだっていうことを認識してくれるかどうかが肝心なのかもしれない。

渡辺 そのためにも、今日の座談会や小さな活動でも続けていくこと、粘り強くやっていくことがすごく大事

かなと思いますね。ユネスコエコパークに登録されたことが目的ではなくて、それを活用して、さっき

(林) 泉さんがおっしゃったように利活用をして、みんなに住んでいる人たちが豊かに暮らしていく様子。それによって、移住やUターンにつなげていくことが大事なのかなと。子どもたちに自然への気づきを与えてあげられるような活動していくことが必要かなと思います。というか、寒くなってしまったね(笑)

林 本当に。じっとしていると寒い(笑)

### みなかみ町に住む子どもたちは、どう感じているのでしょうか?

松原 私の場合は、町内小学校・中学校の児童・生徒がこの一ノ倉沢を歩きに来たり、谷川岳を登ったりするときに、ガイドとして子どもたちを案内しています。そこでは必ず、この「ユネスコエコパーク」の話をしています。「君たちが住んでいるのは、ここなんだよ」「ここから生まれて流れていた水が、利根川を出て、首都圏の生活用水になつて、大切な水なんだよ」「だからこの自然は守らなければいけないんだよ」という話をすると、真剣に聴いてくれるんです。

林 素晴らしいですね!

松原 子どもたちの方が、柔軟性はあるかもしれないですね。

林 赤谷プロジェクトでも同じで、まずは子どもたちに意識してもらうことが大切だと思うんだよね。

渡辺 本当に教育は大事ですよね。子どもたちから影響を受けて大人も再認識してほしいですね。

松原 子どもたちのなかには「ユネスコエコパーク」が浸透していると思うんです。私としては、その子どもたちが大人になったときに、どうなっているかが楽しみなんです。

林 子どもたちはみんな、ちゃんとよく調べている。

松原 そうですね、本当にみんな勉強しています。

林 新治小学校では、イヌワシの勉強もしていて、ありがたいなと思う。逆に反省するのは、自分たちが子どものときに勉強してこなかった…。

渡辺 たしかにそうですね(笑)

林 自分たちの身近にある自然も郷土のこと、なんら顧みることなく東京へ出て行って、いろいろあってまた戻って来たときに、「自分は何もこの地域のことを知らないんだ!」って思う。そこからいろいろ勉強を始めたり、プロジェクトの活動も始まつたりして「ああ、そうか。こういうことなんか。」と、だんだん少しずつ分かりつつある。でもそれは人それぞれだから。子どものほうが、確かに吸収する力はある。今の時代に、ちゃんと自分の地域のことを学んでくれることによって、もしかしたら将来帰って来てくれるかもしれない。そうやってこの地域が、つづいていければいいと思っています。

林 旅館というより、「温泉」は、その地域に降った雨が、何十年か循環している中で湧きでてきたもの。だから、**温泉もみなかみユネスコエコパークの「恵」なんだよ**。そこはちゃんと話したほうがいい。そういう循環

## 実践編

### 実際に今、みなさんがご活躍されている中で、どういった形で「ユネスコエコパーク」を活用されていますか?

渡辺 そうですね。蕎麦を冷やす「水」に、山からの湧水を使っていることをPRしています。でも、エコパークに登録される前からの話ではあります(笑)。あとは、海外や都内の百貨店とかに「蕎麦パスタ」という商品を出して、そのパッケージの後ろに、「この蕎麦とお水は、ユネスコエコパークのものを使っている」と書いています。「首都圏 3000万人の水源から」というキャッチコピーも使わせてもらっていて、お客様に安心を伝えられて、さらにみなかみ町全体のPRになればと思っています。

林 温泉というより、「温泉」は、その地域に降った雨が、何十年か循環している中で湧きでてきたもの。だから、**温泉もみなかみユネスコエコパークの「恵」なんだよ**。そこはちゃんと話したほうがいい。そういう循環



### 渡辺 一彦

手打ちそばの老舗「そば処角彌」を経営。地元産の食材を多く使い、手作りの味にこだわり、創業250年の歴史を守りつつ、新しいことに積極的にチャレンジしている。みなかみ町観光協会の理事としても、若手としてその手腕を発揮している。

<http://www.kadoya-soba.com/>



している社会の中で、自分たちはうまく温泉を利用させてもらっている。さらに温泉は地域住民の健康づくりに役立てたり、心の安らぎを与えることができる。この間読んだ本に、「森林セラピー」は日本が発祥と書かれていました。この地域に来るということ、みなかみだったら標高が500m以上の場所が多く、都会の人がそういう気候の中に来るということが重要で。森の中に入ることが、体はもちろん、心にもいい影響が与えられるんです、という風に発信した方がいいと思うんです。

全員 おおー!

林 だから、一泊二日じゃなくて、何日か滞在してみなかみ町の素晴らしい



山岳ガイド 松原 美成子

みなかみ山岳ガイド協会所属。埼玉県からみなかみ町へ移住し、バックカントリーで山に親しんでいた経験を活かし、谷川岳工コツーリズムのガイドとして活動。

<https://mmga.jp/>

いと。年を取って「もうダメだ」「違うところ行かなきゃ」という話になるのではなく、ここで生活できるような体制を作っていくべきだといふのではなくと思うんだよね。

### 例えば、アウトドアの人たちが歳を重ねたら、ノルディックウォークの指導をするとか?

松原 そうそう、ほんとほんと!できると思います。可能性はあると思う。

林 ラフティングで遊んだ若い人が年を取って、「もう体力的に無理だ」ってことなら、森の中歩いてもらうだけでも違うと思う。私なんかそろそろそっちの方なんだから。

全員 いやいや(笑)

### 3人それぞれさんが、みなかみ町の中で好きな場所や空間を聞いてみたいのです。

渡辺 たくさんあるのですが、個人的には、宝台樹スキー場の第9リフトの山頂から見る晴れた日の景色が好きですね。

松原 たしかに。東京から帰って来るとき、ほっとしますからね。

林 こういうところをもっとアピールしたほうがいいのかなと思うんです。今はもう、温泉に入ってどんどん騒ぎすることが観光ではない時代だと思うんだよね。

松原 私はガイドとして、すべてのお客様に「ユネスコエコパーク」の話をしますが、ヘルスツーリズムにも関わっています。そこでも、森林セラピーに近く、森の中に入るだけでも体が違うんです。ストレスをなくすためのプログラムなどもやったりしているんです。私はガイドや移住者として発信する立場なので、地道な活動を続けていこうかなと思っています。

### 地道ですよね、本当に。

松原 はい、ひとりひとりに(笑)

林 今は、みなかみのアウトドアの人たちや若い人たちが中心になって、盛り上げようとしているけれど、やっぱりそういう若い人たちが、ずっとここで暮らせるような仕組みを作っていくかな





住んでいる人だから話せる、マニアックな「オススメ空間」話はもっと聞いてみたい人も多いはず

**渡辺** スキーツながりだと、奥利根スノーパークの第2リフト、長いリフトの途中から振り返って見る町の風景が好きですね。綱子、僕の住んでいるところと少し違うところなんですが、そこで暮らしている人が見えるというか、今はドローンとかで簡単に見えるんだけど(笑)、そういうんじゃなくて、小さいころから「誰々のうちの車が動いている」とか、そういう生活している人がいたりっていうのを見て面白いなとか、いいなと思った感覚がありますかね。

**林** そういう思い出とか、探せばいくらもあるよね。人によってまた違うから。

**渡辺** そうそう、思い出とかです。

**林** みなかみ町で前にやっていた、みなかみ町の100景のように、それぞれ自分の好きなところみたいな形で、いろいろな人から出してもらうのも面白いかもしない。でも、私は、うちから眺める景色が最高かな(笑)

**全員** あはは(笑)羨ましいですね！(笑)

**林** だってそうだよ！毎日毎日、ロビーから見ている景色だから。

**松原** それはでもたしかに、毎日ですよね。

**林** そうだよ、だって人工物が見えるわけじゃないし。

**松原** そうかー！

**全員** 贅沢ですねー！

**林** で、日々移り変わる姿を見ながら。もう外へ出なくて済むんだから(笑)

**松原** あー、でも今、そう言われて、私も部屋の窓から見る景色は大好きですね。毎日でも、本当に飽きない。

**林** 毎日、いやでも見ざるを得ないんだから(笑)

**松原** 本当に好きだなあ。今言われて、「ああ、そうだよな～」と思って。あとは、やっぱり一ノ倉沢と、冬の湯檜曽川からスノーシューで入っていった時のカタズミ岩とか。あの辺の景色は、もうヨーロッパのような景色なんです。

**渡辺** 圧倒されますよね。

**松原** そうですね、でもやっぱり、部屋の窓から見える景色が一番かな(笑)

**林** だから住んだんでしょ？(笑)

**松原** はい、そうなんですよ(笑)

**林** こっちは、生まれた時からそれを見てるから(笑)

では最後に、これからみなかみ町がどうなっていくのか、一言ずつお願ひします。

**林** 松原さんも言っていたんだけど、みなかみ町を説明するときに「世界に誇れるこの自然」というけれど、実はこの自然は、普遍的にある自然なんだよね。なので、他の貴重な自然を持って

いるところからすれば、それほどではないんだけど。でも、あくまでもそういう自然を、このBR(ユネスコエコパーク)っていうのは、そういった自然の「恵」を活かしながら私たちが暮らしてゐるんだっていう、このことだけはしっかりと、きちんと認識しておかなければいけない。世界を見ると、開発が進んでしまって、BR(ユネスコエコパーク)を返上したところってたくさんあるんだよね。

**全員** えー！！

**林** だから、そういうこともあると、頭の隅に本当は置いておく必要があると思う。私たち住んでいる人たちが、やっぱりその責任は持たないといけない。そういう部分は出てくるはず。みなかみ町の自然に価値があるのは、とても多様性に富んでいるところ。じゃあ、なぜそうなったかっていうと、「日本海側」と「太平洋側」の気候がぶつかっているところがこの町。それから、もうひとついえるのは、「イヌワシ」と「クマタカ」が、お互い本来であれば別々に住んでいる猛禽類であるはずなんだけれど、みなかみでは、それが同じエリアに住んでいるっていう、いかにこの自然が多様性に富んでいるかということ。その貴重さを理解していく必要はあるのかなと思います。この自然は、あんまり「貴重！貴重！」なんて言うと、色々とツッコミなどが入るから(笑)、そういうんじゃなくて、自分たちが住んでいるこの地域は「非常に多様性に富んだ地域だ」と意識して、住んでいる者として、この地域をちゃんと守り、伝えていく責任がある、ということをしっかりと理解していかないといけないのかなと。ついでに言えば、本当は「広める」っていうこともやらなさいといけない。それこそ「観光」との関係だよね。

**全員** そうですね。

**渡辺** そういう部分を誇りに持ちながら観光を発展させていくためには、「教育」がすごい大事かなと思っていて。やっぱり子どもだったり若い人だったりが、ポジティブな気持ちになったり、夢を持てたりするような町になってもらいたい。そのためにはやっぱり生活をしていけるっていうことが、すごい重要な条件だったりするので、教育だとか、自分は子育てもしていますけど、そういうことを教えていきたいなと思います。自然だけが残って、それはたぶん「ユネスコエコパーク」の理念とは異なると思うので、それをうまく活用して、仕事を生み出したり、新しい価値観を生み出せたりできると思うので、そういう部分を大事にして、本当に子どもや若い人たちが夢を語れて、「こういうことをやりたいんだ」とか、それで生計を立てられて、家族を築いていけるような町にしていくことが大事かなと思っています。ヨーロッパのリゾートと比べても、負けていないと



ころもたくさんあると思うんですけど、そういう部分(教育)に学ぶこともたくさんあると思っています。例えば、自分はお酒も好きでビールも好きなんんですけど(笑)、同じものがやっぱり場所によって、ロケーションによって、同じ町の中でも価格が全然違ったりだと、季節によって価格などは旅館さんやホテルさんとかでも異なる。平日でも土日でもシーズンじゃなくても、色々お客様が来てくれて、持続可能になるようなそういう町になってもらいたいなとは思っています。実現はかなり難しいんですけど、ひとつずつ手は打っていきたいなと思っています。

**松原** みなかみ町は自然を活かすことがとても得意だと思うので、そこに住んでいる方たちが、自然を活かすには、やっぱりみなかみの自然の価値を知る必要があると思っています。さらにその持続をしていかなければならないという点でも、その価値が常に身についていきないとできないので、やっぱり一人一人がこのみなかみの自然の良さを「認める」「知る」ことが大事だと

今回ご登場していただいた3名のお話しをじっくり聞きたいかたは、「みなかみユネスコエコパーク」のホームページをご覧ください。“MINAKAMI HEART”溢れる動画をお楽しみください！  
<https://www.town.minakami.gunma.jp/minakamibr/data/index.html>



思っています。私は、ガイドをしながら、地道な作業ではあるんですけど、言い続けていきたいなと思っています。本当にこのみなかみは、生物の多様性、この谷川岳の固有種があったり、植物なんかも固有種があったりとか、とにかく自然が、すごく多様なので、そういうことを住んでいる方が認識して、みなかみの価値を高めてもらつて、それぞの生活につなげていってもらいたい。私はそこをずっと訴えていきたいなと思っています。で、最初に言った通り、子どもたちがあと何十年後かに、今私たちのやっている活動がつながっていければいいな、と思っております。

**ありがとうございます。みなさん、最後に言い残したことありますか？**

**林** 寒い！(笑)

**全員** あはは(笑)

2019年10月31日(木)早朝  
場所：谷川岳・一ノ倉沢  
取材・編集：みなかみ版DMO  
ブランド委員会事務局

